

# コロナ禍の休校措置等が高校教育に与えた 影響に関する意識調査の結果より

高橋利行\*

- I はじめに
- II 調査について
- III 結果の分析(概説)
- IV 結果の分析(詳細)
- V それぞれに適した学習
- VI まとめ

## I はじめに

2020年2月28日、文部科学省は新型コロナウイルス感染症対策のために小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等に対して、一斉臨時休業の通知を发出した(元文科初第1585号)。これを受けて、岐阜県教育委員会は3月2日から臨時休業を行い、その後の感染状況を踏まえて、5月31日(日)までその措置を延長した。その期間中においては、4月下旬からオンラインによる学習支援を全県立学校で展開した。また、5月25日(月)から登校日実施期間を設け、学校再開前のガイダンスを行い、6月1日(月)からは分散登校など段階的に学校を再開した後、6月15日(月)から通常授業による学校を再開した。

このようなコロナ禍の緊急事態に対応した休校措置やオンライン学習などが高校生に与えた影響について調査を行った。今まで生徒も教師も経験のしたことのない状況に対して高校生がどのように感じたのかを把握することにより、今後の同様の緊急事態への対応の参考資料とするとともに、現状の教育についても見直す示唆が得られることを期待して調査を行った。

なお、本調査は、2020年度岐阜協立大学共同研究におけるデータ収集として実施したものである。今回はアンケート結果の一部の報告を行う。

## II 調査について

### 1 調査の手続きと概要

2020年6月、地元西濃地区の11校と岐阜市内の1校(岐阜市内の1校は本学の連携協力校)の合計12校の高等学校に対して、質問紙調査(無記名回答)の協力を依頼した。7月に質問紙の配布及び回収を行った。その手続きは、当該高等学校の先生から生徒の皆さんに質問紙を渡し、回答後、先生方より質問紙の回収をお願いするものである。

質問紙の回収数は419である。生徒の中には一部の質問に回答のないものもあるが、それを集計から除外はせず、回答のある部分について集計対象とした。

### 2 調査項目

調査項目は ①学習に対する意欲(やる気) ②不安を感じた分野 ③自宅学習の時間 ④授業の理解度 ⑤それぞれに適した学習 ⑥オンライン学習について である。今回は①～⑤について報告する。

分析に当たっては全体の傾向分析とともに、一部の項目については他の項目との関連も調べた。また、生徒の所属する学科に基づいて、普通科とそれ以外の学科(以下「専門科」という)に分けた集計を行った。調査の概要について表1に示す。なお、総合学科については、専門科の範疇に入れて集計を行った。

\* 岐阜協立大学経済学部教授

表1 調査の概要

学科	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	k	l	合計	区分について		
	家庭・福祉科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	総合学科	商業科	工業科	家庭・福祉科	普通科	工業科		区分	生徒数	200
生徒数	27	37	43	29	36	36	38	38	37	37	22	39	419	普通科	男	85
男	3	11	27	9	7	20	14	20	29	37	11	30	218		女	115
女	24	26	15	20	29	15	23	18	8	0	10	9	197	専門科	男	133
無回答	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	4		女	82
区分	2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	2				

### III 結果の分析 (概説)

各項目についての結果の概要を以下に記す。

#### 1 学習に対する意欲

「普段の登校時 (以下「通常」という)」「3月から4月の休校中の自宅学習期間 (以下「自宅or自宅期間」という)」「5月から6月のオンライン学習中 (以下「通信or通信期間」という)」における学習に対する意欲を「大変学習意欲が湧いた」「ある程度学習意欲が湧いた」「あまり学習意欲が湧かなかった」「まったく学習意欲が湧かなかった」の4択の中から選択した。その結果を表2.1に示す。

全体では、「意欲が湧く」と答えた生徒の割合は通常と自宅期間、通信期間ともに大きな変化がないものの、「ある程度意欲が湧く」と答えた生徒が通常では58.6%であるのに対して自宅期間で27.0%と半減し、通信期間でも30.1%と減少している。やはり自宅学習やオンラインによる学習の期間に生徒たちの意欲は減少していることは否めない。生徒の状況について後ほど詳しく分析する。

学科別では、普通科については「全く意欲が湧かない」という生徒の割合が、通常で7.9%のところ、自宅期間では13.8%とほぼ倍増している。通信期間だと9.4%と増加の割合はそれほど多くない、専門科の生徒に比べ普通科の生徒の方が、自宅期間での意欲の減少が大きい。

反面、専門科について「意欲が湧く」と答えた生徒の割合が、通常6.5%のところ、自宅期間8.8%及び通信期間10.2%と増加しており、「まったく意欲が湧かない」生徒も通信期間には13.0%から12.1%と減少していることは注目できる。

学習意欲の変化の状況をみるために、最も肯定的な「大変意欲が湧く」の回答値を4とし、最も否定的な「全く意欲が湧かなかった」の回答値を1として数値化した。回答値の平均は2.5であり、数値がこれより大きいと意欲があり、小さいと意欲が低いと解釈できる。この数値化で求めた平均は

通常：全体2.7 (普通科2.8専門科2.6)

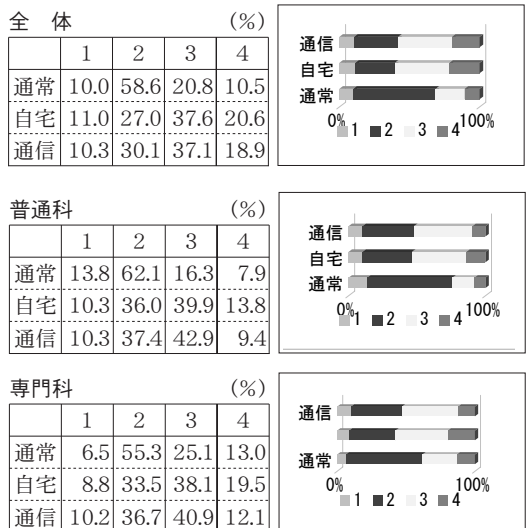
自宅：全体2.4 (普通科2.4専門科2.3)

通信：全体2.5 (普通科2.5専門科2.5)

となり、自宅期間、通信期間とも意欲の減少がみられる。しかし、通信期間の方が意欲の減少が少ないことから、今回図らずも急遽導入したオンラインでの学習が、ある程度有効である可能性がある。

表2 調査結果の分析 (概要)

表2.1 学習に対する意欲



- 1：大変学習意欲が湧いた
- 2：ある程度学習意欲が湧いた
- 3：あまり学習意欲が湧かなかった
- 4：全く学習意欲が湧かなかった

## 2 生徒が不安を感じた分野

3月に登校禁止になってから6月の学校再開までの期間の生活で、「学習面」「生活リズム」「部活動・クラブ活動」「友達関係」「進路」の各分野について「とても心配だった」「ある程度心配だった」「あまり心配ではなかった」「まったく心配ではなかった」の4択の中から選択した。結果を表2.2に示す。

表2.2 不安を感じる分野

全体 (%)				
	1	2	3	4
学習	15.3	40.9	30.4	13.4
リズム	8.9	24.9	39.7	26.6
部活	14.1	17.9	30.1	37.8
友人	5.0	14.8	38.0	42.1
進路	16.3	36.9	34.5	12.2
普通科 (%)				
	1	2	3	4
学習	18.2	40.9	31.5	9.4
リズム	10.3	23.2	43.3	23.2
部活	15.8	19.2	29.1	36.0
友人	6.4	18.7	39.9	35.0
進路	16.7	30.0	43.8	9.4
専門科 (%)				
	1	2	3	4
学習	12.6	40.9	29.3	17.2
リズム	7.4	26.5	36.3	29.8
部活	12.6	16.7	31.2	39.5
友人	3.7	11.2	36.3	48.8
進路	15.9	43.5	25.7	15.0

- 1：とても心配だった  
 2：ある程度心配だった  
 3：あまり心配でなかった  
 4：全く心配でなかった

全体として「学習」「部活」「進路」について「とても心配」と答えた生徒が多く、「生活リズム」「友人関係」についてはあまり心配していない様子が見られる。「友人関係」については、SNSなど生徒たちは対面でなくても人間関係を維持できている可能性がある。その反面「部活動」については練習ができないことへの不安から比較的高い数値となっている。「生活リズム」については予想以上に心配していない様子が見られる。

普通科では、「学習」に、専門科では「進路」に最も多くの生徒が強く不安を覚えており、今後の生徒への対応の参考となる。

## 3 自宅での学習時間について

各期間における平日と休日の自宅での学習時間(塾での学習時間を含む)を「ほぼ0時間」「1時間以下」「2時間以下」「3時間以下」「4時間以下」の4択から選択した。結果を表2.3に示す。

表2.3 学習時間

平日 全体 (%)					
	1	2	3	4	5
通常	22.7	36.8	22.7	12.0	5.7
自宅	18.2	32.9	24.5	11.5	12.9
通信	9.8	27.5	25.1	16.0	21.5
普通科 (%)					
	1	2	3	4	5
通常	5.9	23.3	36.1	23.3	11.4
自宅	9.4	24.8	23.3	18.3	24.3
通信	3.5	16.3	27.7	22.3	30.2
専門科 (%)					
	1	2	3	4	5
通常	38.4	49.5	10.2	1.4	0.5
自宅	26.5	40.5	25.6	5.1	2.3
通信	15.7	38.0	22.7	10.2	13.4
休日 全体 (%)					
	1	2	3	4	5
通常	21.1	29.9	17.0	13.9	18.2
自宅	22.1	31.3	21.9	10.1	14.7
通信	17.5	32.2	21.9	11.1	17.3
普通科 (%)					
	1	2	3	4	5
通常	8.9	11.9	20.3	22.8	36.1
自宅	11.4	22.3	23.8	15.3	27.2
通信	7.9	20.8	24.3	16.8	30.2
専門科 (%)					
	1	2	3	4	5
通常	32.4	46.8	13.9	5.6	1.4
自宅	32.2	39.7	20.1	5.1	2.8
通信	26.6	43.0	19.6	5.6	5.1

- 1：ほぼ0時間  
 2：1時間以下  
 3：2時間以下  
 4：3時間以下  
 5：3時間以上

自宅期間、通信期間ともに学校からの課題が出ていたこともあり、平日で通常「ほぼ0時間」の生徒の割合が22.7%から、自宅期間には18.2%に通信期間では9.8%と減少している。「3時間以上」の生徒の割合は通常の5.7%が、自宅期間には12.9%に通信期間には21.5%に増加しており、全体として、自宅での学習時間の増加がみられ

る。

ここで、学習時間を数値化するために、「ほぼ0時間」を0分とし、以下「1時間以下」30分、「2時間以下」90分、「3時間以下」150分「4時間以下」210分として平均を求めた。

平日の学習時間（単位：分）

- 通常：61.5（普通科98.3専門科27.1）
- 自宅：76.3（普通科106.8専門科47.7）
- 通信：100.1（普通科126.7専門科75.3）

休日の学習時間（単位：分）

- 通常：78.2（普通科125.8専門科33.6）
- 自宅：68.4（普通科101.1専門科37.6）
- 通信：75.7（普通科109.5専門科43.9）

自宅期間、通信期間ともに、学習時間は増加しているが、自宅期間には課題が与えられ、通信期間にはオンラインでの学習が行われたことから考えると、この増加量で十分かは、各学校に応じて判断する必要がある。

普通科において、自宅期間には平日の学習時間が98.3分から106.8分と増加しているが、休日の学習時間は125.8分から101.1分と減少している。このことは、通常時に出されている休日の課題等が自宅期間にはないことの影響であろう。

また、特徴的なこととして、専門科において通信期間に平日の学習時間が27.1分から75.3分と大きく増加している。これはこの期間での学習意欲の増加と関係があるのではないか。オンライン学習の導入により学習形態が変化したことにより意欲を持って学習に取り組んだ結果、学習時間が増加した生徒のいることがうかがえる。

専門科において、平日の学習時間が自宅期間、通信期間とも大きく増加しているが、通常の学習時間が普通科に比して少なく、課題が与えられると学習できるが、そうでないと学習ができない傾向が専門科の生徒にあるのかもしれない。

#### 4 理解度について

各期間における理解度について「どの教科も授業の内容はおおむね理解できている」「理解できない教科もあるが、授業の内容が理解できる教科の方が多い」「理解できる教科と理解できな

い教科がほぼ半々である」「理解できる教科もあるが、授業の内容が理解できない教科の方が多い」「どの教科も授業の内容があまり理解できていない」の5択から選択した。結果を表2.4に示す。

表2.4 理解度

全体 (%)					
	1	2	3	4	5
通常	14.8	54.1	25.6	4.5	1.0
自宅	11.0	27.0	37.6	20.6	3.8
通信	10.3	30.1	37.1	18.9	3.6
普通科 (%)					
	1	2	3	4	5
通常	14.4	58.9	21.3	4.5	1.0
自宅	12.9	29.7	36.1	18.8	2.5
通信	10.9	30.2	38.6	17.3	3.0
専門科 (%)					
	1	2	3	4	5
通常	15.3	49.5	29.6	4.6	0.9
自宅	9.3	24.5	38.9	22.2	5.1
通信	9.7	30.1	35.6	20.4	4.2

- 1：どの教科も授業の内容はおおむね理解できている
- 2：理解できない教科もあるが、授業の内容が理解できる教科の方が多い
- 3：理解できる科目と理解できない教科がほぼ半々である。
- 4：理解できる教科もあるが、授業の内容が理解できない教科の方が多い。
- 5：どの教科も授業の内容があまり理解できていない

全体の傾向として、理解度について通常に比べ、自宅期間、通信期間ともに減少している様子が見られる。

「おおむね理解できる」生徒は減少しているものの、14.8%が11.0%、10.3%とある程度の割合は維持できているが、その次の段階の「理解できる科目の方が多い」生徒については、54.1%が27.0%及び30.1%へと半減している。この層の理解度の減少が大きいことについては課題である。また、「理解できない科目が多い」と答えた生徒も、通常時4.5%に比べて、自宅期間20.6%、通信期間18.9%とともに増加している。

学習時間の増加や学習意欲が増加した生徒もいることなど、自宅学習やオンライン学習に対応した生徒の努力も感じられるが、理解度の減少は大きく、今後オンラインや課題での学習に際しては、理解度の維持が課題となる。

の章では、各項目について細かな分析を行う。

## IV 結果の分析(詳細)

表3 学習意欲の変化

通常から自宅期間への変化										%				
全体										減少	増加	減少割合	維持割合	増加割合
通常意欲	1	5	8	21	8				42	34	0	81.0	19.0	0.0
	2		36	103	91	14			244	139	14	57.0	37.3	5.7
	3			11	43	25	6		85	11	31	12.9	50.6	36.5
	4				18	8	6	10	42	0	24	0.0	42.9	57.1
小計	5	44	135	160	47	12	10	413	184	69	44.6	38.7	16.7	
普通科										減少	増加	減少割合	維持割合	増加割合
通常意欲	1	-3	-2	-1	0	1	2	3	28	21	0	75.0	25.0	0.0
	2			16	55	46	9		126	71	9	56.3	36.5	7.1
	3				3	18	9	3	33	3	12	9.1	54.5	36.4
	4					8	3	3	14	0	6	0.0	57.1	42.9
小計	1	21	73	79	21	6	0	201	95	27	47.3	39.3	13.4	
専門科										減少	増加	減少割合	維持割合	増加割合
通常意欲	1	-3	-2	-1	0	1	2	3	14	13	0	92.9	7.1	0.0
	2			4	3	6	1		118	68	5	57.6	38.1	4.2
	3				20	48	45	5	52	8	19	15.4	48.1	36.5
	4					8	25	16	28	0	18	0.0	35.7	64.3
小計	4	23	62	81	26	6	10	212	89	42	42.0	38.2	19.8	
通常時から通信期間への変化										%				
全体										減少	増加	減少割合	維持割合	増加割合
通常意欲	1	-3	-2	-1	0	1	2	3	42	28	0	66.7	33.3	0.0
	2			3	13	12	14		245	124	10	50.6	45.3	4.1
	3				17	107	111	10	87	6	33	6.9	55.2	37.9
	4					6	48	26	44	0	25	0.0	43.2	56.8
小計	3	30	125	192	43	13	12	418	158	68	37.8	45.9	16.3	
普通科										減少	増加	減少割合	維持割合	増加割合
通常意欲	1	-3	-2	-1	0	1	2	3	28	20	0	71.4	28.6	0.0
	2			1	8	11	8		126	63	6	50.0	45.2	4.8
	3				8	55	57	6	33	2	9	6.1	66.7	27.3
	4					2	22	6	16	0	8	0.0	50.0	50.0
小計	1	16	68	95	14	5	4	203	85	23	41.9	46.8	11.3	
専門科										減少	増加	減少割合	維持割合	増加割合
通常意欲	1	-3	-2	-1	0	1	2	3	14	8	0	57.1	42.9	0.0
	2			2	5	1	6		119	61	4	51.3	45.4	3.4
	3				9	52	54	4	54	4	24	7.4	48.1	44.4
	4					4	26	20	28	0	17	0.0	39.3	60.7
小計	2	14	57	97	29	8	8	215	73	45	34.0	45.1	20.9	

1 : 大変学習意欲が湧いた  
3 : あまり学習意欲が湧かなかった

2 : ある程度学習意欲が湧いた  
4 : 全く学習意欲が湧かなかった

### 1 学習に対する意欲について

#### (1)各期間における学習意欲について

各期間における学習に対する意欲について相関係数を求めると

通常と自宅期間の相関 0.10

通常と通信期間の相関 0.16

自宅期間と通信期間の相関 0.65

となり、通常の学習の意欲と自宅期間、通信期

間の意欲との相関はほぼ見られない。自宅期間と通信期間については相関がみられる。普段の学習に意欲が湧く生徒でも自宅期間や通信期間に意欲が湧かないか、あるいは逆に、普段意欲が湧かない生徒が、自宅期間や通信期間に意欲が湧く可能性を示唆している。全体の傾向だけではなく、個々の生徒の状況について調べる必要がある。

通常の各意欲の生徒が、自宅期間、通信期間に意欲がどのように変化したのかを項目を数値化して、その差を取ったものが表3である。「1：大変意欲が湧く」の回答値を1とし、自宅期間に「4：まったく意欲が湧かない」の回答値を4とし、その差-3が意欲の減少の度合いを示すと考える。

この結果、自宅期間において、通常「大変意欲が湧く」と答えた生徒については、19%が意欲を維持できているが、81%の生徒は意欲が減少している。また、通常「ある程度意欲が湧く」生徒についても、自宅期間で57%、通信期間で51%の割合で減少がみられる。これを実人数で見ると、自宅期間で139人(33.7%)、通信期間で124人(29.7%)と相当数にのぼり、通常「ある程度意欲が湧く」生徒の意欲の減少が重要な課題である。

(2)意欲と学習時間の関係

次に、通常時の学習に対する意欲と各期間の学習時間の関係について表4.1に示す。学習時間については学科別の違いがあることから、学科別の結果を示す。学習時間の数値化についてはⅢ3で示した方法とする。

表4 調査結果の分析(詳細その2)  
表4.1 通常の意欲別のと学習時間と増加率

単位：分

普通科	通常平日	自宅平日	通信平日	普通科	通常休日	自宅平日	通信平日	
1	125.6	135.6	1.1	157.8	132.2	0.8	137.8	0.9
2	104.8	110.7	1.1	142.6	114.5	0.8	124.8	0.9
3	60.0	84.5	1.4	88.2	79.1	0.9	82.7	0.9
4	80.6	73.1	0.9	93.8	78.8	0.8	88.1	0.9
	a	b	b/a	a	b	b/a	c	c/a

単位：分

専門科	通常平日	自宅平日	通信平日	専門科	通常休日	自宅平日	通信平日	
1	40.7	47.1	1.2	45.0	51.4	1.1	66.4	1.5
2	31.8	49.4	1.6	44.4	45.0	1.0	52.6	1.2
3	22.8	53.9	2.4	32.8	45.6	1.4	47.5	1.5
4	9.6	30.0	3.1	17.1	31.1	1.8	35.4	2.1
	a	b	b/a	a	b	b/a	c	c/a

- 1：大変学習意欲が湧いた
- 2：ある程度学習意欲が湧いた
- 3：あまり学習意欲が湧かなかった
- 4：全く学習意欲が湧かなかった

普通科においては通常「意欲が湧く」と回答した生徒は通常時平日で125.6分の勉強時間で

るところ自宅期間では135.6分、通信期間で156.7分となっている。学習に意欲が湧く生徒ほど学習時間を多く確保しており、この傾向は通常も自宅期間、通信期間もほぼ変化がない。

専門科については通常では、学習に対する意欲と学習時間は同じ傾向であるが、自宅期間では異なる変化の状況がみられ、さらに細かく分析する必要がある。

また、増加の割合をみると、普通科において通常「あまり意欲が湧かない」生徒が60.0分から通信期間には107.3分と1.8倍の増加である。また、専門科の、通常「全く意欲が湧かない」と答えた生徒も通常9.6分の平均が、自宅期間には52.5分と5.4倍に増加している。このように生徒の状況に応じて学習に対する取組に変化があることについては、今後の検討が必要な課題である。

(3)意欲と理解度の関係

次に、学習に対する意欲と各期間における理解度の相関係数を調べたものが表4.2である。通常理解度と意欲(0.22)、自宅期間理解度と意欲(0.31)、通信期間理解度と意欲(0.37)と弱い相関があることがわかる。意欲がある生徒が理解度も高い傾向が弱いながらもあることを示している。

表4.2 意欲と各期間における理解度の相関  
数値は相関係数

全体	理解度通常	理解度自宅	理解度通信
通常意欲	0.22	0.08	0.05
自宅意欲	0.01	0.31	0.32
通信意欲	0.01	0.30	0.37

普通科	理解度通常	理解度自宅	理解度通信
通常意欲	0.31	0.19	0.17
自宅意欲	0.14	0.39	0.30
通信意欲	0.12	0.38	0.41

専門科	理解度通常	理解度自宅	理解度通信
通常意欲	0.13	-0.06	-0.07
自宅意欲	-0.10	0.23	0.33
通信意欲	-0.08	0.22	0.34

特徴的なことは、専門科において平常の意欲と自宅や通信期間の理解度の相関係数がそれぞれ-0.06、-0.07と負の値となっていることである。相関関係があるとは言えない程度で

はあるが、他と異なる傾向にある。通常理解度と自宅や通信期間の理解度の相関係数もそれぞれ-0.10, -0.08となっている。通常時には意欲が湧く生徒が自宅・通信期間の理解度が低下することや、その逆で通常時に意欲が湧かない生徒が自宅・通信期間に理解度が上昇するなど、逆の相関の傾向にある可能性があり今後検討する必要がある。

## 2 不安を感じた分野について

### (1)不安を感じた分野間の関係

生徒が不安を感じた分野の間にどのような関係があるかを調べた。その分野間の相関係数を表4.3に示す。

表4.3 不安を感じた分野間の関係

数値は相関係数

全体	学習	リズム	部活	友達	進路
学習	1.00				
リズム	0.48	1.00			
部活	0.34	0.32	1.00		
友達	0.30	0.33	0.21	1.00	
進路	0.51	0.31	0.34	0.32	1.00

学習と生活リズム、学習と進路に不安を抱える生徒の間には強い相関0.48及び0.51がみられる。学習に不安を抱える生徒は生活リズムが崩れることに不安を感じ、進路にも不安を感じていることがみられる。今後のこのような事態に対しては、学習及び生活リズムと進路について総合的に生徒を見ていく必要がある。

### (2)不安分野と通常意欲の関係

表4.4に通常時の意欲と不安分野の関係を調べた。そのため、不安の回答の「とても心配」の回答値を1とし、順に「全く心配でない」の回答値を4まで数値化した。回答値の平均が2.5であることから、これより低い値は不安が高いことを示していることとなる。数値が低い方が不安感も強いと考えられる。それによると、学習意欲の高い生徒が、進路に対して2.1と不安が最も大きいことがわかる。

意欲の段階が高いほどどの分野に対しても不安を高く感じている傾向にある。意欲をもって高校生活を送ろうとしている生徒が今回、不安を感じているという厳しい実態がある。今後こ

のような緊急事態に対して生徒の不安解消の方法が大きな課題である。

表4.4 不安分野と通常学習意欲の関係

数値は「1:とても心配だった 2:ある程度心配だった 3:あまり心配でなかった 4:全く心配でなかった」の平均値

全体	学習	リズム	部活	友達	進路
1	2.2	2.8	2.8	2.9	2.1
2	2.3	2.8	2.9	3.2	2.4
3	2.5	2.9	3.0	3.2	2.4
4	3.0	3.1	3.1	3.5	2.9

- 1:大変学習意欲が湧いた
- 2:ある程度学習意欲が湧いた
- 3:あまり学習意欲が湧かなかった
- 4:全く学習意欲が湧かなかった

### (3)不安分野と学習時間の関係

表4.5に通常時の平日の学習時間と不安を感じる分野の関係について上と同様に平均値を取って調べた。どの段階の生徒も学習と進路に不安を感じている。

表4.5 不安分野と学習時間の関係

全体	学習	リズム	部活	友達	進路
1	2.6	3.1	2.9	3.3	2.4
2	2.5	2.8	2.9	3.2	2.5
3	2.2	2.7	2.7	3.1	2.4
4	2.1	2.6	2.9	2.9	2.3
5	2.4	3.0	3.2	2.8	2.3

- 1:ほぼ0時間
- 2:1時間以下
- 3:2時間以下
- 4:3時間以下
- 5:3時間以上

学習時間の多さと不安の度合いは一致するわけではなく、「学習」「リズム」については3時間以上の生徒より、2時間から3時間の生徒が不安を強く感じている。「部活」については1時間以上2時間以下の生徒が不安をより感じている。「友達」については3時間以上の生徒が不安を感じているのは特徴的である。

「進路」については、どの生徒も強い不安を感じており、「学習時間がほぼ0」の生徒が進路については、項目で一番強く不安を感じた項目である。

今回の休校措置等はコロナ禍による緊急事態対応であり、学校側も学習や進路について明確な方向性を生徒に示しえなかった現状がある。今後は、学習面及び進路についていかに安心感を与えるかが課題となる。

3 学習時間について

(1)各期間における学習時間の相関

表4.6 各期間の学習時間の相関

数値は相関係数

	通常平日	通常休日	休校平日	休校休日	通信平日	通信休日
通常平日	1.00					
通常休日	0.83	1.00				
自宅平日	0.60	0.60	1.00			
自宅休日	0.62	0.69	0.88	1.00		
通信平日	0.45	0.46	0.63	0.53	1.00	
通信休日	0.60	0.67	0.73	0.83	0.65	1.00

各期間における学習時間の相関係数については表4.6に示す。

全体としては、通常の学習時間と自宅・通信期間の学習時間には正の強い相関関係があることがわかる。

(2)各期間における学習時間の変化

平日の学習時間の通常と自宅期間及び通信期間の変化について調べた結果を表5に示す。学習時間が3時間以上の生徒については、79.2%が勉強時間の確保ができているのに対して1時間から3時間の生徒の層「3」「4」の区分については課題が出されているにもかかわらず、自宅期間で、それぞれ32.6%と34.0%の生徒の学習時間が減少している。反面、学習時間が1時間に満たない生徒については課題が出されたことにより増加している様子が見えてくる。

表5 学習時間の変化

通常から自宅期間への変化

通常学習時間	全体									小計	減少	増加	%			
		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3				4	減少割合	維持割合	増加割合
1					1	44	33	12	1	4	95	1	50	1.1	46.3	52.6
2					24	73	41	11	5	4	154	24	57	15.6	47.4	37.0
3				6	25	37	13	14			95	31	27	32.6	38.9	28.4
4			5	12	21	12					50	17	12	34.0	42.0	24.0
5	1	1	1	2	19						24	5	0	20.8	79.2	0.0
小計	1	1	12	64	194	99	37	6	4	418	78	146	18.7	46.4	34.9	

通常学習時間

通常学習時間	普通科									小計	減少	増加	%			
		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3				4	減少割合	維持割合	増加割合
1					6	4	1	2	3	4	12	0	6	0.0	50.0	50.0
2				7	20	10	6	4		1	47	7	20	14.9	42.6	42.6
3			5	22	25	8	13				73	27	21	37.0	34.2	28.8
4			3	11	21	12					47	14	12	29.8	44.7	25.5
5	1	1	1	2	19						23	4	0	17.4	82.6	0.0
小計	0	1	9	42	91	34	20	4	1	202	52	59	25.7	45.0	29.2	

通常学習時間

通常学習時間	専門科									小計	減少	増加	%			
		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3				4	減少割合	維持割合	増加割合
1					1	38	29	11	1	3	83	1	44	1.2	45.8	53.0
2					17	53	31	5	1		107	17	37	15.9	49.5	34.6
3			1	3	12	5	1				22	4	6	18.2	54.5	27.3
4			2	1							3	3	0	100.0	0.0	0.0
5	1	1									1	1	0	100.0	0.0	0.0
小計	1	0	3	22	103	65	17	2	3	216	26	87	12.0	47.7	40.3	

通常から通信期間への変化

通常学習時間	全体									小計	減少	増加	%			
		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3				4	減少割合	維持割合	増加割合
1					1	25	27	20	6	14	93	1	67	1.1	26.9	72.0
2					9	65	37	22	21		154	9	80	5.8	42.2	51.9
3			3	20	39	13	20				95	23	33	24.2	41.1	34.7
4			5	9	23	16					53	14	16	26.4	43.4	30.2
5	1	1	1	3	19						24	5	0	20.8	79.2	0.0
小計	1	1	8	42	171	93	62	27	14	419	52	196	12.4	40.8	46.8	

通常学習時間

通常学習時間	普通科									小計	減少	増加	%			
		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3				4	減少割合	維持割合	増加割合
1						3	3	2	1		9	0	9	0.0	0.0	100.0
2				2	16	10	9	10			47	2	29	4.3	34.0	61.7
3			2	13	34	8	16				73	15	24	20.5	46.6	32.9
4			3	9	23	15					50	12	15	24.0	46.0	30.0
5	1	1	1	3	19						23	4	0	17.4	82.6	0.0
小計	0	1	5	27	92	36	28	12	1	202	33	77	16.3	45.5	38.1	

通常学習時間

通常学習時間	専門科									小計	減少	増加	%			
		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3				4	減少割合	維持割合	増加割合
1					1	25	24	17	4	13	84	1	58	1.2	29.8	69.0
2				7	49	27	13	11			107	7	51	6.5	45.8	47.7
3			1	7	5	5	4				22	8	9	36.4	22.7	40.9
4			2			1					3	2	1	66.7	0.0	33.3
5	1	1									1	1	0	100.0	0.0	0.0
小計	1	0	3	15	79	57	34	15	13	217	19	119	8.8	36.4	54.8	

1 : ほぼ0時間 2 : 1時間以下 3 : 2時間以下 4 : 3時間以下 5 : 3時間以上



#### 4 理解度について

##### (1)各期間における理解度の変化

各期間において理解度がどのように変化したのかを調べた結果を表6に示す。

全体として、45.2%の生徒が理解度を低下させている。これは休校期間及び通信期間ともに同

様である。「どの教科も理解できている」生徒の理解度の減少に比べて、その次の層の理解度の減少幅が大きいことが特徴である。この層を中間層とえば中間層への対応が重要になってくる。

表6 理解度の変化

											%			%		
通常から自宅期間		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	小計	減少	増加	減少割合	維持割合	増加割合
通常時 意欲	全体	1	3	12	14	32					62	30	0	48.4	51.6	0.0
	1		6	44	75	91	10				226	125	10	55.3	40.3	4.4
	2			4	29	64	6	4			107	33	10	30.8	59.8	9.3
	3				1	10	6	2			19	1	8	5.3	52.6	42.1
	4					4					4	0	0	0.0	100.0	0.0
	5										4	0	0	0.0	100.0	0.0
小計		1	9	60	119	201	22	6	0	0	418	189	28	45.2	48.1	6.7
通常から通信期間											%			%		
通常時 意欲		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	小計	減少	増加	減少割合	維持割合	増加割合
通常時 意欲	普通科	1		7	4	18					29	11	0	37.9	62.1	0.0
	1		2	22	39	50	6				119	63	6	52.9	42.0	5.0
	2			1	11	24	5	2			43	12	7	27.9	55.8	16.3
	3					5	3	1			9	0	4	0.0	55.6	44.4
	4					2					2	0	0	0.0	100.0	0.0
	5										2	0	0	0.0	100.0	0.0
小計		0	2	30	54	99	14	3	0	0	202	86	17	42.6	49.0	8.4
通常時 意欲	専門科	1	3	5	10	14					33	19	0	57.6	42.4	0.0
	1		4	22	36	41	4				107	62	4	57.9	38.3	3.7
	2			3	18	40	1	2			64	21	3	32.8	62.5	4.7
	3				1	5	3	1			10	1	4	10.0	50.0	40.0
	4					2					2	0	0	0.0	100.0	0.0
	5										2	0	0	0.0	100.0	0.0
小計		1	7	30	65	102	8	3	0	0	216	103	11	47.7	47.2	5.1
通常から通信期間											%			%		
通常時 意欲		-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	小計	減少	増加	減少割合	維持割合	増加割合
通常時 意欲	全体	1	6	6	18	31					62	31	0	50.0	50.0	0.0
	1		2	42	75	99	8				226	119	8	52.7	43.8	3.5
	2			6	22	70	6	3			107	28	9	26.2	65.4	8.4
	3				2	9	4	3	1		19	2	8	10.5	47.4	42.1
	4					4					4	0	0	0.0	100.0	0.0
	5										4	0	0	0.0	100.0	0.0
小計		1	8	54	117	213	18	6	1	0	418	180	25	43.1	51.0	6.0
通常時 意欲	普通科	1	1	3	8	16					29	13	0	44.8	55.2	0.0
	1		1	20	45	48	5				119	66	5	55.5	40.3	4.2
	2			2	9	27	4	1			43	11	5	25.6	62.8	11.6
	3					5	3	1			9	0	4	0.0	55.6	44.4
	4					2					2	0	0	0.0	100.0	0.0
	5										2	0	0	0.0	100.0	0.0
小計		1	2	25	62	98	12	2	0	0	202	90	14	44.6	48.5	6.9
通常時 意欲	専門科	1	5	3	10	15					33	18	0	54.5	45.5	0.0
	1		1	22	30	51	3				107	53	3	49.5	47.7	2.8
	2			4	13	43	2	2			64	17	4	26.6	67.2	6.3
	3				2	4	1	2	1		10	2	4	20.0	40.0	40.0
	4					2					2	0	0	0.0	100.0	0.0
	5										2	0	0	0.0	100.0	0.0
小計		0	6	29	55	115	6	4	1	0	216	90	11	41.7	53.2	5.1

- 1：どの教科も授業の内容はおおむね理解できている
- 2：理解できない教科もあるが、授業の内容が理解できる教科の方が多い
- 3：理解できる科目と理解できない教科がほぼ半々である。
- 4：理解できる教科もあるが、授業の内容が理解できない教科の方が多い。
- 5：どの教科も授業の内容があまり理解できていない

#### V それぞれに適した学習

今回のアンケートでは、自宅学習やオンライン学習にどのような学習が適しているかの聞き取りを行った。

具体的には「基礎的・基本的な知識身に付ける」「じっくり考えて勉強する」「新しいことを意欲的に学習する」「他の人たちと共同して学習する」「自分で勉強する姿勢を身に付ける」「社会に出たときに役立つ学習をする」の各項目に

ついて、通常の学習、自宅学習、オンライン学習の学習が「適している」「ある程度適している」「あまり適していない」「全く適していない」の4択で回答した。

数値化をするため、「適している」の回答値を1とし、以下順に「全く適していない」の回答値を4として集計をした。各期間における各項目の回答値の平均値を求めたものが表7である。

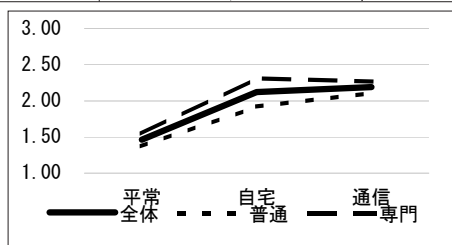
回答値の平均が2.5であるから、これより高い数値のものは適していないと考えられるが、「共

同学習」については普通科も専門科の生徒も共に適していないと回答している。

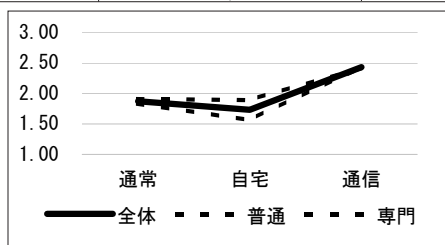
特徴的な事柄として、「じっくり学習する」「自分で勉強する姿勢」については、通常学習より高いと答えている生徒が多い様子が見られる。特に普通科についてはその傾向が顕著である。通常の学習が万全のものではないことを示している。自宅での学習やオンラインでの学習などの良さを、どのように通常の学習に取り入れていくのかが今後の課題である。

表7 学習形態と効果

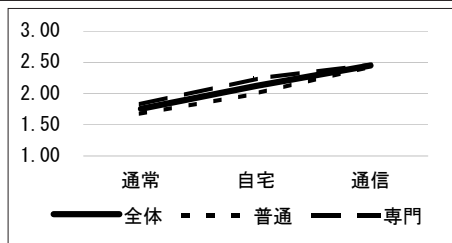
基礎基本	平常	自宅	通信
全体	1.46	2.12	2.19
普通	1.37	1.92	2.11
専門	1.55	2.31	2.27



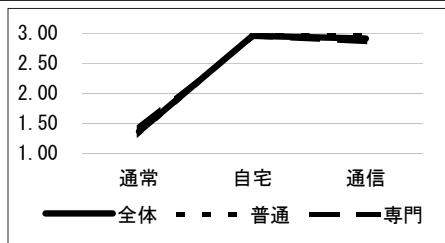
じっくり	通常	自宅	通信
全体	1.87	1.73	2.43
普通	1.84	1.56	2.44
専門	1.91	1.89	2.43



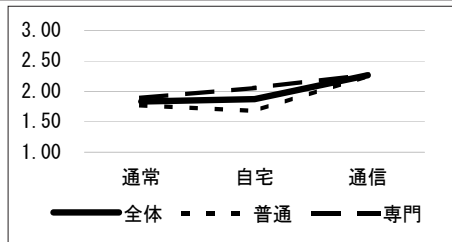
新しい	通常	自宅	通信
全体	1.76	2.12	2.45
普通	1.68	2.00	2.43
専門	1.83	2.23	2.46



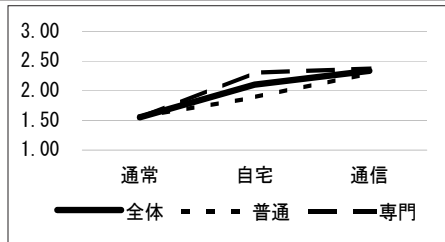
共同	通常	自宅	通信
全体	1.37	2.96	2.91
普通	1.29	2.97	2.98
専門	1.43	2.95	2.86



勉強姿勢	通常	自宅	通信
全体	1.83	1.87	2.27
普通	1.77	1.68	2.26
専門	1.90	2.06	2.28



社会性	通常	自宅	通信
全体	1.55	2.10	2.33
普通	1.56	1.89	2.29
専門	1.54	2.30	2.37



## VI まとめ

今回はアンケート結果の報告を中心として報告した。今後細部の分析を行っていくことになるが、現時点でのまとめを記す。

- ① 学習に対する意欲、理解度において今回の措置の影響で減少傾向がみられる。
- ② しかし、その影響は学科などの生徒の状況によって違いがみられ、個々に見ていく必要がある。
- ③ 学習意欲が高く、学習時間も多く確保できている生徒よりも、学習意欲や学習時間がそれより少ない、いわゆる中間層への影響が大きい。
- ④ 専門科の生徒は自宅期間と通信期間へ良い方向で対応できている。専門科においては授業形態を変化させることが学習効果向上に繋がる可能性がある。
- ⑤ 日常の学習ができなくなると、生徒は不安を感じる。進路関係の不安がどの生徒にも強く見られる。高校生活が3年間しかないことを改めて認識して見通しを持った進路指導、キャリア指導が必要である。
- ⑥ 通常、自宅期間、通信期間の各学習形態に対して生徒はそれぞれの良さを感じている。今回の経験で得たそれぞれの学習形態の良さを今後日常の学習に取り入れることにより今回の緊急事態の経験を生かすことができるのではないか。